

柏原・羽野・藤井等のみ処分地跡「電田古道の里山公園」に 自然体験学習施設設置が賛成議員多数で可決された。

「青少年教育キャンプ場」廃止が昨年12月議会で決定された同時期に自然体験学習施設設置が進められていた。疑惑の「電田古道の里山公園」に市民全体が利用できる施設と全体側は説明している。自然体験学習施設事業費員の質問で明言した。

設置反対議員として橋本議員が発言。

前岡市長が損害を与えた電田古道の里山公園設置は反対である。未解決であると認識している。段差のある庭み替えて240万円を出された。

設置賛成議員として富宅議員が発言。

共産党の荒っぽいという発言に対して中野市長はスピード感があつたと思ふ。賛成・反対討論は議員の賛同を得るのではなく賛同を得るための討論である。「電田古道の里山公園」にはすでに3億円近くの税金がつぎ込まれている。貴重な財源である。

青少年教育キャンプ場の撤去費用が960万円も！

問題なのが「青少年教育キャンプ場」の廃止。撤去費用が960万円もかかることが議会に報告されなかったこと。8年分の地代が払えることになる。半世紀近く使えるなら改良した方がよい。あったのか？ 複雑な気持ちを抱く。

濱浦、橋本、山本議員は反対する。

市民全体が利用できる包括的な青少年施設なら
なぜ玉手山公園でなくてはダメなのか？



柏原市立玉手山公園
「ふれあいパーク」(HPより)

市は玉手山公園で、バーベキューが敷設できないが青少年教育施設にならない。果てはバーベキューだけて人をリビートでできるか疑問である。

柏原市が5年前に社会保険庁から買い取った「サンヒル柏原」。市の経営は初年度から実質赤字である。

取得金額も委託料も異常

サンヒル柏原は3億円ほどの価値といわれ、5億1500万円という高値で落札するとは、市は最初から「経営者」というビジネスの観点から全くない。その上、食料品部門の委託業者「サントリイダイナック」に売り上げの8割を払っているらしい。

「赤字なら税金で穴埋め」という安易さ

前市長は「儲かる」と豪語していたが、赤字になると「市民サービスの施設」であること逃げ利便上がった。本場に利益が上がると思え、購入したとは思えない。市民サービスであり、事業をするときは計画性のあるプランを立てるのが常務だ。サンヒル柏原の幹部

年間2万人の利用者を目標にしている「電田古道の里山公園」よりも四季折々に楽しさを与えてくれる玉手山公園の方が利用者が多いと思う。

昨年13人、今年もすでに1人が死亡

ウイルスで致死率3割

マダニは3〜8ミリの大きさで、春から秋、特に4月から8月頃までマダニは3ミリの大きさで、春から秋、特に4月から8月頃まで活動が活発になる。動物の血を吸って生息し、草や木、シカやイノシシなど野生動物が出没する環境にも見られる。マダニが怖いのは、「SFTSウイルス」を持っていることである。噛まれた時は気づかないが、1週間程度の潜伏期間後、発熱や嘔吐、下痢といった症状が出る。この感染症を引き起こすと致死率3割と非常に高く、治療方法がないということである。

マダニに
要注意!



国立感染症研究所より

消滅する市町村に「柏原市」!

「中央公論」6月号に、消滅する市町村523の一つとして柏原市もランクイン。ゆとりのある柏原市を取り戻すには、対策が必要である。

中野市長は、人口を8万人(現在約72000人)とする公約をした。濱浦議員が、議会ですべての予算を削減すること、市長の答は「柏原病院で毎年4〜500人子供を生んでいただき、亡くなるお年寄りとの差を少なくする環境を考えていく」という答弁であった。人口減少になると財源不足に陥る。赤字になる事業を拡充させることは絶対反対ではならぬ。無駄な経費を省き、住民税、固定資産税、介護保険、国民健康保険など安くすること、本市の市民サービスである。月1000円でも安くなれば必ず人口が増えると思う。今後の財源確保のために借り上げ料、無駄な施設、人件費などを見直しゆとりある財政を構築し出産支援、子育て支援等を図り若い女性の流出を防ぐべきではないか。

「かしわ見張り番」へのご意見、ご希望は

電話 072 (977) 5502 FAX 072 (977) 8782
メールアドレス info@kashiwara-mihariban.com



「かしわ見張り番」に寄せられた市民の方からの声を紹介します。
2000万円も使って、11月8日(土)する花火大会なら必要ない。8月なら分かるかと……匿名であるが数名の方から電話があった。